



どうして 帝王切開をするの？



赤ちゃんとお母さんの ピンチを救うために行います

- 普通分娩（経膈分娩）をするには危険が伴う時、または母体と赤ちゃんに危機が迫った時にそれを回避するための手段が帝王切開手術です。当センターでは妊娠 24 週以降、必要な場合に医師の判断で行います。
- 比較的安全な手術と言われていますが、手術ですので普通分娩よりはリスクの高いもの。決して「お産がラクになるから帝王切開をする」ということはありません。
- あらかじめ日時を決めて行う「予定帝王切開」と出産中に医師の状況判断によって行う「緊急帝王切開」があります。
- 「予定帝王切開」で多いケースは、前回の出産が帝王切開、さかご、子宮筋腫などの合併症がある場合。「緊急帝王切開」は、分娩中の赤ちゃんの心拍異常、お産がすすまない場合などの理由で行われます。
- 「予定帝王切開」は陣痛が来る前に行う必要があるため、手術日を 38 週前後に設定します。



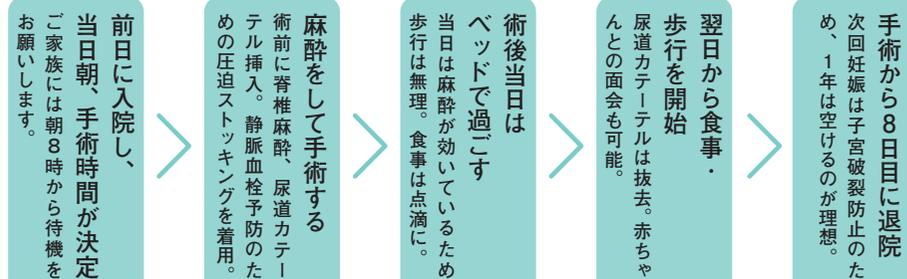
帝王切開って どんな手術なの？



麻酔をかけて開腹し、 赤ちゃんを子宮から取り出します

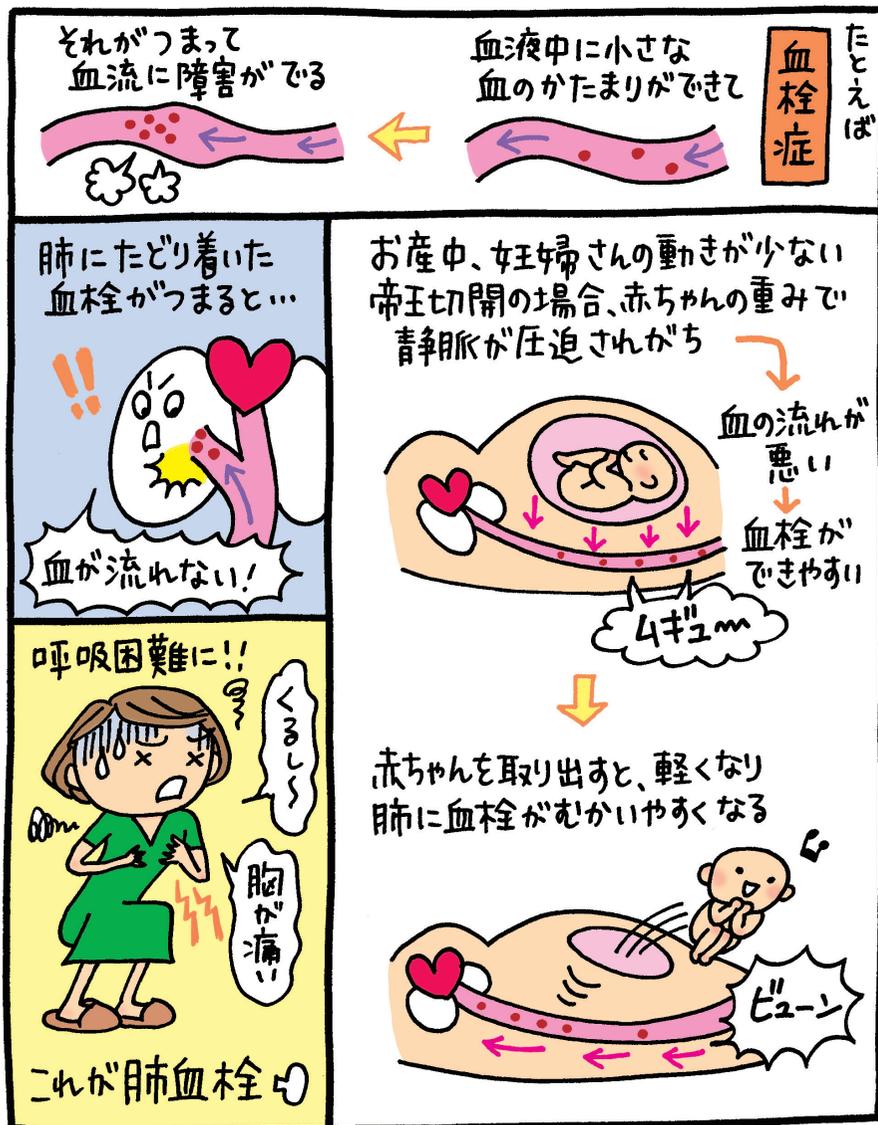
- 予定帝王切開は脊椎麻酔で行います。下半身にだけ効く麻酔なので、妊婦さんは意識があり、医師と会話もできます。状況次第で生後の赤ちゃんに触れることも可能です。ただし、緊急で時間的余裕のない場合は全身麻酔になります。
- 帝王切開の切開方法には、ヨコ型とタテ型があります。ヨコ型は回復後の傷跡が下着のラインに沿うため、目立ちにくいという利点があります。タテに切ると傷跡が目立ちやすいのですが、皮膚の線維に沿って切ることになるので治りが早いという利点があります。通常下腹部をヨコ型に切開しますが、一刻を争う緊急の場合や、帝王切開と併せて追加で手術をする場合などはタテ型に切ることもあります。気になる場合は医師にご確認ください。
- 手術には約1時間程かかります。術後の入院は当センターの場合、普通分娩より2日ほど長い8日間の入院となります。
- 帝王切開の場合、おっぱいの分泌や子宮が非妊娠時の状態に戻る「子宮復古」が遅れやすくなります。

予定帝王切開の流れ





帝王切開には リスクがあります



もっとも気をつけたいのは 多量の出血と血栓症

- 帝王切開はもともと赤ちゃんを育てるために血液が集中している腹部を切るの
で、出血しやすいもの。傷口が広がって出血することがあります。また、子宮の
戻りが悪いことによる弛緩出血（「**▲** 妊娠 & 出産のトラブル解説」参照）も起
こりやすいトラブルのひとつです。
- また、血栓症のリスクもあります。普通分娩の場合、分娩時に歩くなど体をあ
る程度動かしますが、帝王切開の場合は麻酔をするため、1時間近くベッドに
寝ています。すると赤ちゃんの重みに押され、静脈に小さな血のかたまりができ
やすくなります。赤ちゃんが生まれると血が勢いよく流れ出し、かたまりが一か
所につまってしまいます。これが血栓症（肺塞栓）、いわゆる「エコノミークラス
症候群」のことで、妊娠中はもともとこの症状が起きやすい状態になっています。
- 当センターでは血栓症予防のため手術前から弾性ストッキングの着用をし、手
術時には脱水や血液濃縮を予防するための点滴、脚のマッサージなどが行われ
ます。また、術後は早くから歩くことも大切です。
- 帝王切開で出産すると次回の出産も普通分娩が困難なため帝王切開になりま
す。子宮は一度切開しそこを縫合しているため、陣痛などに耐える力が弱く、子
宮破裂といって、子宮が破れてしまう恐れがあるからです。